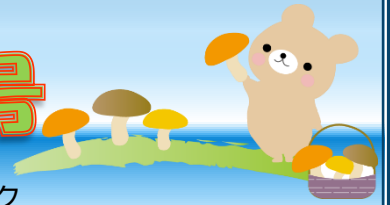


かとうクリニック 第17号



発行日：平成30年10月1日 発行人：かとうファミリークリニック

糖尿病をどのように治療すべきか、それが問題だ

9月には大きな台風が日本列島を通過してきました。クリニック周辺では大きな被害はありませんでしたが、あらためて防災について考えさせられました。

今回は7月(第14号)にお話しした糖尿病の続きで、治療についてまとめてみました。

(糖尿病は1型と2型に分けられますが、今回は生活習慣と関連の深い、2型糖尿病のお話です)

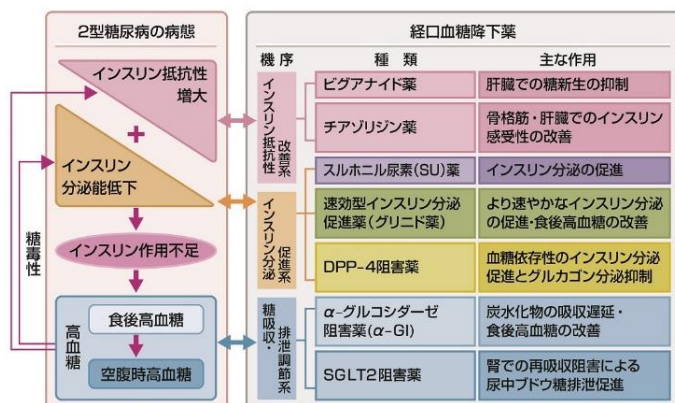
●膵臓の機能と血糖上昇

日本人は欧米の人々に比べ体格が小さく、膵臓のインスリン産生能力も低いといわれています。終戦後急速に進行したライフスタイルの近代化と食生活の欧米化(欧米か！ではありません…)により、インスリンが効きにくくなり膵臓が頑張っても追いつかなくなる(インスリン抵抗性の増大)、膵臓がへばってしまいインスリンが出にくくなる(インスリン分泌能低下)が2型糖尿病の大まかな原因といえます。

●治療薬は百花繚乱の時代

糖尿病治療薬は内服薬だけでも下の表にありますように多種多様。2種類の成分を1錠にした合剤もあり、さらに複雑です。これを使っておけばOKという万能薬はなく、選択肢が多いだけにどのタイプの薬を選択するかが重要になってきました。はじめの一手にどの薬を選択するか、が重要ともいえます。

病態に合わせた経口血糖降下薬の選択



●治療と生活の両立：持続可能性をめざして血糖値やHbA1cがとにかく下がれば良い、という時代は終わり、低血糖や血糖値の変動幅も考慮し、安全に血糖値を安定化して動脈硬化：心筋梗塞や脳梗塞などの疾患を予防し、健康寿命を延ばすことができるか、治療の質が問われるようになってきているといえます。当院では、新薬一辺倒ではなく、大規模臨床試験で心血管イベント抑制効果を示した薬剤を基本に、服用回数や薬価なども考えながら、患者さんの病態に合った薬をご提案できるよう心がけております。1~2か月間の血糖推移の指標であるHbA1cも当日に結果が出ますので、空腹時や食後の血糖値などと組み合わせながら治療を考えていきます。またサステイナブル(持続可能)な生活習慣改善のサポートにも取り組んでいきます。

スタッフより

10月11日、当院のお向かいに「カモデンタルクリニック」さんが開院します。糖尿病の治療でも「食べること」は非常に重要です。いつまでも自分の歯でおいしく食べられるように、お口と身体のトータルケアをめざして連携を深めていきたいと思っております。優しい女医さんとスタッフがお待ちしております。お気軽にご相談ください。

